

先生のための「社会資本」学習支援講座レポート

地図・地理普及特別班

夏真っ盛りの2005年8月9日、岐阜県各務原市で行われた『先生のための「社会資本」学習支援講座』を取材しました。この講座は国土交通省中部地方整備局が主催しており、身の回りの社会資本が「なぜ、つくられたのか」「どんな技術が活用されているのか」「どのように地域に役立っているのか」など、小中学校の授業で実践できる指導方法を紹介しています。東海地方を中心に多くの小・中学校の先生方が参加しました。

この中で行われた愛知教育大学教授 寺木潔先生による「地図帳で調べ、発見する社会資本」の講座の内容を紹介します。

身近な県レベルから国土レベルの地域に多くの社会資本（公共建築物）がつけられている事実気づかせることで、地図の読図能力を身につけ、これか



講座風景

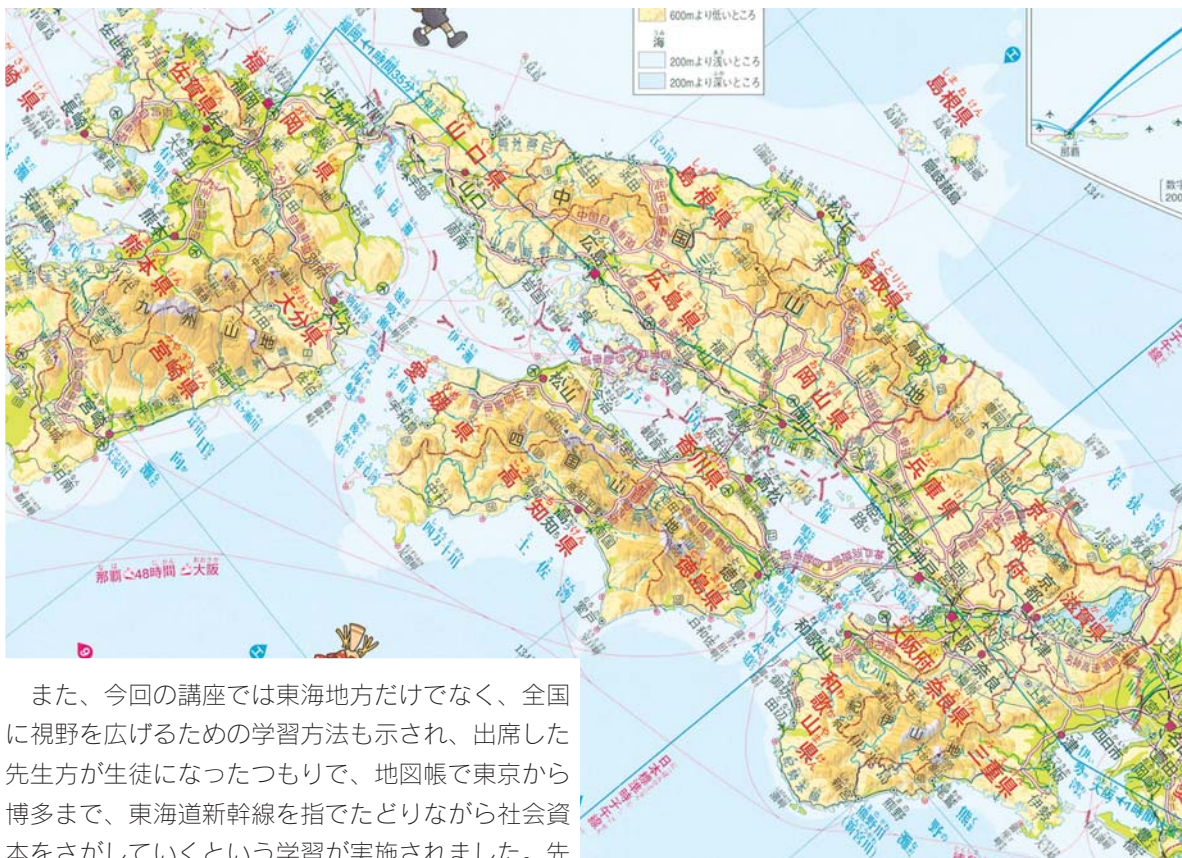
らつくる社会資本への夢を地図のうえに育むことを目標にしています。

方法としては、たとえば愛知県を題材とする際には、帝国書院版小学校用地図帳の「名古屋とそのまわりのくわしい地図」もしくは中学校用地図帳の「愛知県とそのまわり」の地図を活用し、河川や湾、山地に着目し、公共建築物を探していきます。

具体的には、伊勢湾にある埋立地の海岸線（直線部）に着目させ、「自然の海岸ではなく、広い埋立地にさまざまな施設もあり、貿易に役立っていること」に気づかせたり、伊勢湾の周囲に通っている高速道路に着目させ、伊良湖水道に橋を架けて大きな道路を通せないか考えさせます。その他にも「藤前干瀬」や愛知県内の主要河川（豊川、矢作川、庄内川、木曾川）などに着目し、公共建築物をさがしたり、その必要性について考えさせます。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.33～34



帝国書院「小学生の地図帳 (初訂版)」p.32

また、今回の講座では東海地方だけでなく、全国に視野を広げるための学習方法も示され、出席した先生方が生徒になったつもりで、地図帳で東京から博多まで、東海道新幹線を指でたどりながら社会資本をさがしていくという学習が実施されました。先生方からは、「東京都と川崎市との境に羽田空港がある」「箱根にトンネルがある」「富士市に港がある」「名古屋を通る高速道路がある」「明石海峡に橋がかかっている」「広島市に港がある」といった声があがりました。さらに、地図からさがすだけではなく、あなたなら、全国的にみてどのような社会

した。

この講座は、「社会資本」という一つのテーマで地図を見ていくことにより、児童・生徒のさまざまな「発見」「気づき」を促し、さらに自ら考えさせる内容だったと思います。また、地域から導入し全国へと視野を広げていく流れも興味深いものでありました。

『先生のための「社会資本」学習支援講座』では、紹介した「地図帳で調べ、発見する社会資本」のほかにも、身体を使って橋や建物の成り立ちについて学ぶ「体で学ぶ建造物のおもしろさ」、ゲームを使って社会資本の価値を学ぶ「道路や水道を買ってみよう!」、ペットボトルを使ってダムや防波堤など水圧を考慮した建造物のしくみを学ぶ「水圧ってどんな力?ダムの気持ちになって」、玩具を使ってレンガの積み方などを学ぶ「レゴブロックで学ぶ建造物のしくみ」といった受講者が実際に手を動かし、身体を使う「参加型」の講座が行われました。また、会場近くの実験河川の見学も行われたりと盛りだくさんな内容でした。



講座風景

資本をどこにつくりますかという課題がだされました。東海地方「知多半島と三重県の伊勢市を結ぶ道路をつくる」という東海地方の地域に根ざした意見がでたほか、北海道や九州にまで視野を拡げ、「千歳空港と釧路を結ぶ高速道路をつくる」「大分県と宮崎県を結ぶ高速道路をつくる」という意見もでま